YU9

YU-INFORMATION
2011 SEPTEMBER No.103
山口大学広報誌

国際化推進への取り組み

地域と世界に開かれた拠点大学を目指して
丸本学長 × 松田副学長 対談

知の国際化、知の共有を目指して
広がりを見せる国際交流活動

微生物の解析と利用に向けたアジアにおける国際共同研究
医学系研究科 山田教授 インタビュー

グローバルマインドを身に付けて世界で活躍しよう！
留学＆国際交流プログラム

YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

Y9

YU-INFORMATION
2011 SEPTEMBER No.103

「志」つなぎ 伝える 二百年

山口大学は、長州藩士・上田鳳陽によって1815年に創設された私塾山口講堂を起源とし、明治・大正期の学制を経て、1949年に、地域における高等教育および学問研究の中核たる新制大学として創設されました。来る2015年には、山口講堂創設から創基200周年を迎えます。
山口大学は、地域に根差した大学として、さらなる充実と飛躍を期し、次なる100年をより有意義なものにするための記念事業を計画しています。

「志」つなぎ 伝える 二百年
創基200周年
山口大学

テーマ

国際化推進への取り組み

近年、急速にグローバル化が進む世界情勢において
大学の国際競争力の強化が求められています。
山口大学では、人と知の国際化を推進するため
海外の大学や研究機関とのネットワークを強化し、
持続的な研究・教育活動を行っています。
また、学生の海外派遣を推進すると同時に、
外国人留学生の受け入れを積極的に行い、
キャンパスの国際化も促進しています。
地域と国際社会の良好な関係を維持することで
本学の国際活動は交流から協力へと発展しています。
YU-INFORMATION9月号では、そうした国際化推進に向けた
本学のさまざまな取り組みをご紹介します。

CONTENTS

■巻頭対談 01
地域と世界に開かれた拠点大学を目指して
丸本学長 × 松田副学長 対談

■特集 1 04
知の国際化、知の共有を目指して
広がりを見せる国際交流活動

■特集 2 06
微生物の解析と利用に向けたアジアにおける国際共同研究
医学系研究科 山田教授 インタビュー

■特集 3 08
グローバルマインドを身に付けて世界で活躍しよう！
留学＆国際交流プログラム

■連載企画 12
考える就職活動
［第 3 回］営業を仕事にするということ

■年間企画 13
NEWS&TOPICS
こちらYU-PRSS

YU INFORMATION
ワイユーインフォメーション
山口大学広報誌 第 103 号

山口大学総務部広報課
〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
TEL 083-933-5007 FAX 083-933-5013
E-MAIL：sh011@yamaguchi-u.ac.jp
URL：http://www.yamaguchi-u.ac.jp/

編集発行／山口大学広報委員会
西田輝夫（副学長・総務企画担当）／木下武志（副学長補佐）／坪郷英彦（人文学部）
石井由理（教育学部）／成富敬（経済学部）／白石清（理学部）／坂井出功（医学部）
清水剛一（工学部）／阿座上弘行（農学部）／何晩毅（大学教育機構）
近久博志（産学公連携・イノベーション推進機構）／小河原加久治（大学情報機構）
富平美和（エクステンションセンター長）／兵藤隆（アドミッションセンター長）
久保元伸（大学院技術経営研究科）／梅木哲也（総務部広報課）

企画・編集・撮影／セントラル広告
デザイン／ジーエータップ
印刷／大村印刷

地域と世界に開かれた拠点大学を目指して

刻々と変化する情勢の中、「大学の国際化」を具体的にどう展開していくのか。
丸本学長と松田副学長の対談を通して、現在の取り組みと今後の展開をご紹介します。

人の国際化、知の国際化

丸本：近年、グローバル化の進展に伴い、政治、経済、環境など、一国の取り組みだけでは解決しない地球規模の課題が深刻化しています。また、インターネットや情報機器の発達により、学問の領域は急速に広がりを見せています。そうした状況の中、日本の大学の「ガラパゴス化」が指摘されています。進化から取り残されてしまった孤島になぞらえて大学の国際競争力の低下に警鐘が鳴らされているのです。この現状を打破するため、本学では「大学の国際化」を目指したさまざまな取り組みを行っています。

松田：取り組みの一つとして挙げられるのが「人の国際化」です。本学では、共通教育にTOEICに準拠したカリキュラムを導入し、英語コミュニケーション能力の向上に取り組んでいます。豊かな国際感覚を身に付けるために「国際交流論」や「国際理解論」などの関連科目も導入しています。さらに、奨学金制度や短期語学研修の単位化などを通じて、学生を海外に送り出すことにも力を入れています。現在、本学から海外留学をする学生は長期・短期を合わせて年間約90人。世界中の大学と大学間学術交流協定や部局間交流協定を結び、学生や教職員の人的交流を活性化しています。

丸本：企業はグローバルな人材を求めているため、就職に際して海外経験が有利に働くケースも少なくありません。グローバルな人材とは、単に英語が話せる人材という意味ではなく、海外経験によって英語力はもちろん、柔軟性やたくましさ、行動力を身に付けた人材のことを意味します。海外では一個人ではなく日本人として見られます。外国のことを知る前に、日本の歴史や文化を正しく理解すること。その上で異文化を経験し、外から自分や日本を見つめ直すこと。まずは日本人としてのアイデンティティーを獲得することが重要です。吉田松陰や長州ファイブに代表されるように、山口には海外に出て行こうとする歴史的風土があると感じています。学生の皆さんには、できるだけ若いうちに海外へ留学することを勧めたいですね。

松田：おっしゃる通りです。世界で勝負

山口大学 学長　丸本 卓哉
Marumoto Takuya

1967年九州大学農学部農芸化学科卒業。農学博士。
山口大学助手、助教授、教授を経て2004年に理事・副学長、
2006年に学長に就任。2010年、再選。
趣味は武道（空手道7段・居合道4段）、映画鑑賞。

山口大学 副学長　松田 博
Matsuda Hiroshi

1980年広島大学大学院工学研究科博士後期課程構造工学専攻、工学博士。広島大学助手、山口大学講師・助教授・教授を経て、2010年に山口大学副学長に就任。在外研究員としてロンドン大学インペリアルカレッジへ留学経験を持つ。

するためには、日本人としての教養をはじめ、大学人としての専門性や技術力を身に付けること。その次に、その強みを英語で表現できることが重要です。

丸本：こうしたことから、本学の理念である「発見し・はぐくみ・かたちにする知の広場」は、まさに国際人材の資質そのものを表現していると実感しています。

松田：もう一つ、大学の国際化を促進するために忘れてならないのが、国際的な研究・教育レベルの維持・推進を目指した「知の国際化」です。本学では、研究・教育レベルでの国際交流を根付かせるために、共同研究や研究者交流を効果的に組み合わせた国際交流を展開しています。現在動いている大きなプロジェクトとして、日本学術振興会の「アジア研究教育拠点事業（ACP）」があります。タイやベトナム、ラオスの研究機関も加わり、世界的にも注目されている「耐熱性微生物」の研究を進めています。その成果は、研究論文や特許申請といった学術的なものだけでなく、次世代を担う若手研究者の育成にもつながっています。

キャンパスが国際交流のステージに

丸本：大学の国際化を測る一つの指標となるのが、外国人留学生の数です。なぜなら、優れた大学には世界中から優秀な人材が集まってくるからです。現在、本学に在籍している外国人留学生は295人。今後は受け入れを500人までに拡大したいと考えています。優秀な外国人留学生を獲得するため、各種奨学金制度の導入や海外オフィスを通じた本学の情報公開など、留学しやすい環境も整えています。外国語表示による大学情報のバリアフリー化や、宿舎などのインフラ整備も行う予定です。大学院への進学を希望する留学生については、渡日前入試ができるように準備を進めています。

松田：今年は、日本学生支援機構の留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）に5つのプログラムが採択されました。これによって海外からの留学生の受け入れと日本人学生の海外派遣の機会も提供しています。

丸本：2年前からスタートした「日本語・

日本文化サマープログラム」も大変好評です。これは、夏休みの4週間を利用して日本語授業や文化体験に参加してもらうプログラムで、将来につながる国際的ネットワークの促進を図ることができるものと大いに期待しています。

松田：さらに、近年、力を入れているのが、外国人留学生の卒業後のネットワーク化です。卒業後も日本と母国との友好の懸け橋になっていただきたいという思いから、名簿作りや留学生同窓会の設立を進めています。既に、インドネシアにおいては同窓会を実施しています。

丸本：外国人留学生を受け入れることによって、キャンパスだけでなくその周辺も国際交流の舞台へと変わります。外国人留学生と切磋琢磨する環境の中、日本人学生や地域の人々にも有意義な波及効果が生まれていると実感しています。

国際交流から国際協力へ

丸本：国際交流からさらに発展させた国際協力の視点が必要だとの思いから「国際協力の里ネットワーク」も立ち上げました。これは、問題意識をもった人々がそれぞれの専門性と役割を持ちながら、国境を越えた協働関係を結ぶネットワークです。本学が触媒となって山口地域と国際社会とのかかわりを強化し、活性化を図ることを目的としており、文化、技術、生活など、多岐にわたるプロジェクトが進行しています。大学の知は学内だけにとどまらず、大学を取り巻く地域の中に生まれるものです。その成果を、国内外の多くの人々と共有することが、地域社会の持続的発展に結びつくのだと考えています。今後も、教職員、学生も含めて、産・学・公・民の輪を広げていきたいと考えています。

松田：そのほかにも、国際協力機構（JICA）と包括連携協定を締結して、環境整備や教育支援など、国際協力に関するいくつかのプロジェクトを進めています。アジアの玄関口という本学の特徴を生かして、グローバルかつローカルな視点で国際貢献に積極的に取り組んでいきたいと思います。

丸本：こうしたさまざまな草の根レベルの活動を通して人的ネットワークが広がっています。今後も、教育・研究活動を充実させると同時に、国際交流、国際協力を推進し、地域と世界に開かれた大学を目指していきたいと考えています。

■広報学生スタッフの感想

教育学部　学校教育教員養成課程　社会科教育選修　3年　佐々木 裕美

大学の国際化に関する丸本学長と松田副学長との対談の場に陪席し、本学で国際化を進めるための取り組みについて学ぶ機会を得ました。学長は「在学生には自身の強みである専門を英語で表現でき、世界で活躍・貢献できる人材になってほしいとおっしゃっていました。そのために、本学では、優秀で意欲的な留学生を積極的に受け入れるなどして、互いの文化を交えた学生間交流を進める機会を多く用意されていることを知り、一学生として、大変印象に残る時間となりました。

特集1

知の国際化、知の共有を目指して、広がりを見せる国際交流活動。

本学では、個々の研究者レベルだけではなく学部・研究科が一体となって、
国際的に魅力ある教育研究拠点の形成を目指しています。
「知の国際化、知の共有」を目指したさまざまな取り組みについてご紹介します。

インドネシアの山口大学国際連携オフィスにてセミナー＆同窓会を開催！

本学は、インドネシアのガジャマダ大学と大学間学術交流協定を締結しています。

2010年1月8日、ガジャマダ大学内の山口大学国際連携オフィス（YUICO）で行われた「STUDY IN JAPAN」セミナーには、インドネシア全土から日本への留学に関心を持つ学生100人以上が集まりました。

このセミナーでは、松田副学長による本学の紹介の後、在インドネシア日本大使館の本村一等書記官による日本留学の説明が行われました。インドネシアの学生によるパフォーマンスやYOSAKOIソーランの披露に続き、山口大学の帰国留学生4人が自身の留学体験を語り、それを受けたパネルディスカッションも開かれました。

参加者からは、山口大学の留学生制度、奨学金に関する質問などが数多く出て、日本留学への関心の高さがうかがえました。

終了後は、第1回山口大学インドネシア同窓会が開かれ、帰国留学生8人や松田副学長が参加し、留学時の思い出話に花を咲かせていました。今後、この同窓会が帰国留学生の交流や活動の場として発展することが期待されます。

日本初の快挙を成し遂げた医学部保健学科の取り組み

看護・健康科学領域の国際誌「Nursing and Health Sciences」を発行

「Nursing and Health Sciences」は、山口大学に編集事務局を設置し、本学教員が編集長を務め、国際的な編集陣によって編集・出版されている、わが国初の看護・健康科学領域の国際誌です。1999年に第1巻が発行され、季刊誌として年4回発行しています。本誌は国内外において高い評価を得ており、投稿数・購読者数ともに増えつつあります。

［HP］ http://www.blackwellpublishing.com/journal.asp?ref=1441-0745&site=1

看護学国際名誉学会の支部が保健学科に誕生

看護学国際名誉学会（Honor Society of Nursing , Sigma Theta Tau International : STTI）は、インディアナポリスに本部を置き、世界中の人々の健康を促進することを第一の使命とし、臨床・教育・研究においてリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的とする組織です。2005年11月に行われた米国本部の会議では、本学医学部保健学科看護学専攻が日本で最初の支部として認可されました。会員・支部ともに厳しい審査を受けて認可されるもので、この認可は快挙でした。

留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）に5つのプログラムが採択

本学では多彩な国際交流プログラムを実施しています。平成23年度は、独立行政法人　日本学生支援機構（JASS0）による「留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）」に、5つの短期プログラムが採択されました。同制度は、3カ月未満の留学生の受け入れ、または3カ月未満の学生派遣プログラムに参加する学生に奨学金を支給するもので、学生相互交流プログラムや大学間ネットワークの構築等に寄与し、大学等の国際化を促進することを目的としています。

■山口大学日本語・日本文化サマープログラム

海外の大学で日本語を学ぶ学生に対し、レベル別クラスを設定し、プロジェクトワーク型の授業を通して、日本語の運用能力を高め、日本への理解を深めることを目的としたもの。本学日本人学生と、クラブやチューター活動などを通して交流を行い、留学生および日本人学生双方が国際理解を深める場となることを目指しています。また、イベントやホームステイなどを通じて、地域の国際化に貢献する効果も期待されています。

■国際獣医学実習プログラム　山口大学×台湾国立中興大学

マンハッタン原則で掲げられている“One World , One Health”のもと、高まる獣医学教育の国際化に対応できる獣医師の養成を目的として、過去5年間実施されてきたプログラムです。本学の農学部獣医学科は伴侶動物の獣医療が充実しているのに対して、台湾国立中興大学獣医学部は野生動物ならびに産業動物の獣医療が充実しています。両大学の特徴ある獣医療を経験し、視野を広げることを目的として、本学から選抜された学生の派遣と留学生の受け入れを行っています。

■国際建設技術者育成のための短期留学プログラム

グローバル社会で対応できるコミュニケーション能力を備えた技術者育成のための教育の一環として、長期休業中に2週間から1カ月程度の短期留学プログラムを2種類用意しています。

A）海外語学研修

海外での語学研修プログラムに参加することによって、日常会話はもちろん、土木工学の基盤となる専門知識の国際コミュニケーションの基礎的能力を習得することを目的としています。

B）海外体験学習

海外の社会基盤整備に対する体験学習、技術指導演習、ボランティア活動または海外の大学での研修を行うことで、国際的な建設技術者としての視野を広げることを目的としています。

■中高温微生物　国際ネットワーク形成プログラム

本学では、アジア微生物学の拠点形成を目指して、タイおよびその周辺諸国の約40大学と中高温微生物に関する国際共同研究を実施する国際交流事業を行っています。その重要な目的の一つに若手研究者の育成を掲げており、学生が中心となった若手研究者セミナーを2008年から毎年開催しています。本プログラムでは、日本だけでなくタイにおいても若手研究者セミナーや短期間の研究を実施することで、実践的な英語力を身に付け、学生間交流を深めるとともに、将来的な国際ネットワーク形成の一助となることが期待されます。

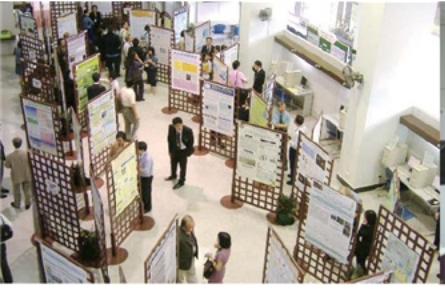
■貴州大学　学生短期招待事業

学術交流協定校である中国・貴州大学から日本語学科の学生を受け入れ両大学の交流を促進します。授業を通して実践的な日本語能力を養うほか、ホームステイやインターンシップを通して日本文化や企業文化に対する理解を深めることを目的としています。

微生物の解析と利用に向けたアジアにおける国際共同研究

本学では、個々の研究者交流を発展させた組織的な学術交流を推進するため、
国内外における共同研究や人的ネットワークの基盤作りなど、活発な事業を展開しています。
今回はその中の一つ、「耐熱性微生物」をテーマにした国際共同研究について、
山口大学医学系研究科（農学系）の山田教授にお話を伺いました。

山田 守
Mamoru Yamada
山口大学医学系研究科教授。アジア研究教育拠点事業（ACP）日本側コーディネーター。中高温微生物研究センター 副センター長。医学博士。



微生物の機能解明に向けて

近年、異常気象の増加や食糧不足、感染症の拡大、エネルギーの枯渇、自然生態系への影響など、地球温暖化に伴うさまざまな問題が浮上しており、特に熱帯地域や水不足の地域を抱えるアジア地域では重要な課題となっています。こうした課題解決の切り札として注目されているのが微生物です。

微生物とは、自然界に存在する小さな生物のことです。例えば、酵母や細菌を利用した味噌やしょうゆなどの発酵食品、カビから生成される抗生物質、下水をきれいにする活性汚泥など、さまざまなシーンで広く利用されています。私たちの身近なところで活躍している微生物ですが、未だその多くが発見されておらず、その機能についても十分に解明されていません。

そこで、山口大学農学部では、微生物の中にこれまで見落としていた有用な機能を持つものを探し出し、その機能を利用することを目的として、1998年から2008年までの10年間、タイのカセサート大学をパートナーとした「拠点大学交流事業」を行いました。

タイを相手に共同研究を開始

拠点大学交流事業とは、日本学術振興会がアジア諸国との交流において実施する大型プロジェクトで、研究課題ごとに日本と相手国の拠点機関において、コーディネーターを中心とした研究者グループを形成し、共同研究や研究者交流を効果的に組み合わせた国際交流を行うものです。

この研究において我々が着目したのは、「耐熱性微生物」と呼ばれる新たな機能を持つ微生物です。耐熱性微生物とは、本来20～30℃程度の常温で生育する微生物が熱に対して強くなり、それより10～15℃高い環境下でも活発に生育できる微生物のことを指します。

研究の結果、タイの亜熱帯環境の中での探索が功を奏し、予想以上に多くの耐熱性微生物の分離に成功し、その有用性を確かめることができました。

この拠点大学交流事業を引き継ぐ形で、2008年からは「アジア研究教育拠点事業（ACP）」を展開しています。日本側の拠点機関として本学が、タイ側の拠点機関としてコンケン大学が参加し、さらにベトナム、ラオスの研究機関も加わって、約90研究機関170人が参加するまでに広がりを見せています。

現在、これまでに獲得した耐熱性微生物を活用して、代替燃料として世界的に注目されているバイオエタノールやバイオガス、バイオプラスチック素材のL-乳酸、食品素材である酢酸の生産を目的に研究を進めています。省エネや低コスト化に配慮した環境にやさしい技術の構築を目指して、日本で基礎研究を行い、タイで実証試験を行っています。個々の実用化試験終了後は、その技術を民間企業に移譲し、新たな技術として世界に広めていく予定です。

国際共同研究のメリット

アジア研究教育拠点事業では、研究者全員が参加するジョイントセミナーやベトナムあるいはラオスでのサテライトセミナーに加えて、若手研究者セミナーを定期的に開催しています。これまでの国際共同研究の成果は、研究論文や特許申請といった学術的なものだけでなく、タイやベトナム、ラオスの研究基盤の底上げや、次代を担う若手研究者の育成にもつながっています。発想や文化の異なる者同士が刺激を受けながらグローバルな視点で研究に取り組むことは、若手研究者にとって極めて貴重な経験となるはず。こうした活動を通じて、若手研究者が大きく成長し、将来、世界を舞台に活躍してくれるものと大いに期待しています。

研究の成果はそれだけにとどまりません。これまでの実績が認められ、2009年には研究拠点である「中高温微生物研究センター」が設立されました。山大農学部の附属施設であるこのセンターは、「発酵」「病原」「環境」の3つのテーマを軸に、微生物学に関する総合的な視野を持った国内外に例のない教育研究拠点として、世界中の微生物研究者や産業界から注目されています。そのため、学内の他学部からの客員研究者を迎えるとともに、海外や企業の研究機関とのネットワークも強化し、活発な教育研究活動を推進しています。

このように国際共同研究が実現できた背景には、長年の研究で培ってきた持続的な人的ネットワークが大きく関係しています。今後も、人的ネットワークの基盤作りを強化しながら、微生物の潜在能力を開発するための基礎研究から応用研究へと確実に発展させてきたいと考えています。開発される技術は、環境や衛生、食糧問題など、地球規模の問題解決に貢献でき、新産業の創成にもつながるものと期待されます。

特集3

グローバルマインドを身に付けて世界で活躍しよう！

本学は、東アジアを中心とする16カ国82の大学等と大学間学術交流協定、部局等間交流協定を締結しています。交換留学や短期語学研修など、さまざまな体験プログラムを用意しており、毎年多くの学生が海外体験の機会を得ています。

学生の留学制度や国際交流のプログラムについて

本学の学生には海外体験や国際交流のチャンスが大きく開けています。協定校に留学する場合は休学の必要はなく、協定校で取得した単位は、所属学部が認める範囲内で本学の単位として認定されます。この機会を利用して海外研修や国際交流活動に積極的に参加しましょう。

1.交換留学

大学間交流協定・学部間交流協定に基づき、協定校に留学する場合は休学の必要がありません。留学先の大学等で履修した授業の修得単位は、所属学部が認める範囲内で、本学の単位として認定されます。派遣期間は半年から1年程度。交換留学の条件に合えば、留学先大学への授業料は免除されます。

2.海外短期語学留学

外国語を習得するには、その言葉が使用されている環境に身を置くのが一番。その機会を提供するために、山口大学留学生センターでは、夏期休暇、春期休暇を利用した、海外短期語学研修プログラムを実施しています。研修実施機関はすべて山口大学の協定校なので、安心して参加することができます。

3.3大学学生交流プログラム

山口大学の発案で2004年からスタートしたプログラム。学術交流協定を締結している中国・山東大学、韓国・公州大学校、本学の学生が、約1週間にわたってさまざまな交流活動を行うことで各国の共通点や違いを知り、東アジアの文化理解、交流促進、平和理解への認識を高めることを目的に毎年開催されています。

4.工学部社会建設工学科 東アジア国際コース

工学部社会建設工学科の本コースでは、通常の講義に加えて、外国人教員や国の担当者・海外事業経験者による講義など、国際技術者育成に必要な授業を展開しています。独自の留学制度と留学奨学金支援制度もあります。本プログラムはJABEEの認定を受けており、民間企業からも注目されています。

体験談

文化や生活習慣を知ることで中国がさらに近くなりました！

北京師範大学／中華人民共和国【交換留学 6ヶ月】
人文学部 言語文化学科 中国語学・中国文化コース4年　普家 麻美さん

北京師範大学に留学した先輩の勧めと就職活動などを考慮して半年間ほど留学しました。現地ではさまざまな国の学生と一緒に授業を受け、皆の意欲に私も刺激を受けました。また、時には冗談も言えるアットホームな雰囲気も魅力でした。休日には友達とバスで買い物に出かけたり、列車で西安や内モンゴルへ出かけたりしましたが、こうした旅を通じて中国の広さや文化の多様性を肌で感じることができたのは大きな収穫でした。最初はどうなるのかと不安でしたが、振り返ってみると、中国での勉強や生活、友達との出会い、新しい発見や感動と、とても内容の濃い充実した半年間となりました。

生きた英語や異文化に触れることで視野が広がりました！

リジャイナ大学／カナダ【短期語学研修 3週間】
大学院理工学研究科 地球科学専攻2年　緑川 貴裕さん

一番の思い出は、ホストブラザーである14歳の男の子とほぼ毎日一緒に過ごしたこと。これが語学習得への近道となりました。日本人同士の会話でさえも日本語の使用は禁止という覚悟で臨んだのも功を奏したのだと思います。海外経験は初めてだったので多少の不安はありましたが、学びたい、感じたい、話したい、楽しみたいといったアグレッシブな感情が強ければ強いほど、道は開けるのだと実感しました。恥ずかしい思いや失敗もたくさんしましたが、おかげで内容の濃い3週間を過ごすことが出来ました。新しい家族や国籍を問わない多くの友人を得たことで、意思が疎通することの喜びを知り、異文化への適応力も身に付きました。

特集3

学生生活をサポートする留学生アドバイザー

本学では、留学を希望する日本人学生や外国人留学生が安心して学生生活を送ることができるよう、留学生アドバイザーを設けています。そこで、留学生アドバイザーの野原さんにお話を伺いました。

山口大学 留学生アドバイザー
野原 志帆さん

今年4月から吉田キャンパス共通教育棟2階のラウンジに留学生アドバイザーが設置されました。毎週月～金曜日の10時～17時の間、さまざまな相談を受け付けています。宇部地区にもアドバイザーが配置されています。予約は不要です。留学生はもちろん日本人学生の皆さんも、身近な国際交流の場としてどんどん活用してください！

[写真左]
広報学生スタッフ／河島 あかねさん
教育学部総合文化教育課程2年

■いつもどんなお仕事をされているのですか？

日本人学生が自分で手続きすることを前提に、留学先を調べる手段や手続きの方法など、留学情報の提供やアドバイスを行っています。目的は必ずしも「留学」ではなく「海外でのボランティア活動に参加したい」といった場合もあります。また、外国人留学生の日常生活のサポートも行っています。外国人留学生やその家族が日本での生活をスムーズに送ることができるように、学校や市役所に提出する書類の作成補助を行ったり、渡日前に日本での生活に関する相談を受けたりしています。クチコミで情報が広がっているようで、利用者は徐々に増えています。

■留学するためには、いつからどのような手続きを行えば良いですか？

留学したいと思ったら、早目に行動するに越したことはありません。こちらに相談に来られた学生さんが、TOEICの点数が基準に達しておらず、留学の機会を逃したという残念なケースもあります。少なくとも1年半前ぐらいから留学準備を始めましょう。

本学には、交換留学や海外短期語学研修という制度があるので、これらを利用することをお勧めします。個人で留学する場合は、自分で手続きをする、あるいは留学斡旋業者を利用するという2つの方法があります。自分で手続きをする場合は、公的な留学情報提供機関や留学情報誌、インターネット等を利用して、治安や物価等を考慮した上で留学先を決定しましょう。語学力に不安がある、または十分な時間がないという場合は、留学斡旋業者を利用するのも良いでしょう。ただし、依頼する前に留学に関する知識をしっかり身に付け、自分の留学目的に合った業者を選んでください。留学先が決まったら、インターネット等で必要書類の確認・準備をし、入学が決まり次第ビザの手続きを行います。住居等の手配は、留学先のアドバイザーに相談してください。

留学する場合の費用は、1年間の生活費だけで（授業料は除く）、アメリカで100万円、ドイツで100万円、中国で57万円、韓国で65万円程度です。奨学金の案内も行っているので気軽にご相談ください。

■学生にメッセージをお願いします。

私は学生時代に1カ月間ほどアメリカ・ボストンに短期語学研修に参加した経験があります。異文化を背景に持つさまざまな人たちと触れ合うことで、自分を見つめ直し、視野を広げ、自分に自信が持てるようになりました。日本で得られない経験や教育に触れることは、留学によって得られる大きな財産だと思います。

本学には、交換留学や短期語学研修を利用して、海外で勉強できるチャンスが数多くあります。まずは留学の目的を明確にして、自分に合ったプランを立て、留学先で得た経験によって、自分自身を大きく成長させてください！

留学体験を生かして働く卒業生

在学中の経験や海外経験を生かして、国際的な仕事に携わっている卒業生にインタビュー。留学のきっかけや留学先で得たもの、現在のお仕事の様子についてお話を伺いました。

公益財団法人 山口県国際交流協会
主事 中江 真紀子さん

平成16年 山口大学理工学研究科
博士前期課程 数理科学専攻 修了
長崎県出身・山口市在住

一歩踏み出す勇気を持てば、新しい道が開けてきます！皆さんも在学中のチャンスを生かしてさまざまなことにチャレンジし、学生生活を有意義に過ごしてください！

夏休み子ども国際塾の様子
子どもたちも一緒に楽しめる多彩なイベントを実施しています。

これまでの経験を生かして人と人をつなぐことを仕事に

米軍基地のある長崎県佐世保市で生まれ育ったため、日常生活のさまざまな場面で外国人と接する機会が多く、英語には慣れ親しんでいました。そうした環境で育ったせいか、小さいころから国際交流には関心がありました。大学時代は留学生と交流するサークルに所属しました。国際色あふれるイベントを通じて、さまざまな文化や価値観を持つ留学生と触れ合ったことは、大きな刺激になりました。当時サークルの顧問をされていた先生の勧めもあって、3年次には協定校であるカナダのリジャイナ大学に1カ月間留学しました。カナダは多民族が暮らす国。さまざまな国の人が、それぞれの文化を守りながらうまく共存していることに驚きました。また、留学先で出会った人々の行動力に圧倒され、自分も何か一歩踏み出したい、行動したいという気持ちが強くなりました。そのころから人とかかわる仕事がしたい、国際的な仕事に就きたいという漠然とした思いを抱いていたように思います。

日本に住む外国人がより快適で安定した生活を送ることができるように窓口となり、多方面でサポートするのが私たちの仕事です。近年は、医療機関への通訳者派遣依頼が増えていることもあり、医療通訳サポーターの養成を重点的に行うとともに、外国人向けの医療ハンドブックの作成や医療機関向けの外国人患者対応マニュアルの作成も行っています。この仕事に就くまでは、外国人と交流すること＝外国語を話すことだと思っていました。しかし、実際には、コーディネート力やコミュニケーション力、行動力、一般的な法律知識など、幅広いスキルが求められます。困っている外国人と、サポートしたいと思っている日本人を結び、双方に喜んでいただけることは、私の喜びであり、やりがいにつながっています。外国人の暮らし全般にかかわる仕事なので、各種ボランティア団体をはじめ行政、法律、医療機関など、さまざまな業種の人と出会う機会があるのもこの仕事の魅力です。大学時代に培った人的ネットワークが生かされる場面も多く、人と人をつなぐこの仕事に日々やりがいと喜びを感じています。

日本に居ながらにして国際交流ができるチャンス！

山口大学には31カ国295人の外国人留学生が在籍しています。家族を帯同する方もいるので、大学周辺にはそれ以上の外国人が住んでいることになります。わざわざ海外に行かなくても、外国人と交流するチャンスはすぐ近くにあります。

後輩の皆さんには、学内外で留学生を見かけたら、思い切って声をかけてみることをお勧めします。多様な価値観や文化に触れることで、国際的な視野を養うことができるはずです。また、山口県国際交流協会では多彩なイベントを実施しているので、国際交流に興味のある方はぜひ参加してください！

考える就職活動

営業を仕事にするということ。

第3回

センパイたちはどんな就職活動をして
希望の企業に就職したの？
在学中に蓄積した経験を
職場でどのように生かしているの？
そこで、「考える就職活動」第３回目は、
山口大学を卒業後、住宅メーカーの営業として
活躍されている下温湯 拓さんに
就職活動や現在のお仕事についてお話を伺いました。

下温湯 拓 Shimonuri Taku

福岡県行橋市出身。山口大学経済学部を卒業。在学中はオープンキャンパスの企画・運営に携わる「CAMゼミ」に参加。2010年、エルクホームズに入社。現在2年目。宇部展示場のアドバイザーとして勤務。

Q1.どのように就職活動を進められたのですか？

A.3年次の秋から合同企業説明会やセミナーに参加し始めました。情報を発信する職種に興味があったので、マスコミや電気関連メーカーなど、さまざまな分野を見て回りました。そのうちに個対個のコミュニケーションを基本とする「営業」という仕事に関心を持つようになりました。仕事の成果がカタチとして残る方がより高い達成感を得ることができると思い、いくつかの住宅メーカーを訪問しました。最終的にエルクホームズを選んだ理由は、人事担当者の人柄や対応を通して会社に好印象を持ったから。きっとお客様にとっても好印象なはず、そう考えて入社を決めました。

Q2.実際に入社されてみていかがですか？

A.経済学部出身なので住宅業界の知識や経験はゼロ。一から覚えることが山ほどあり大変でした。打ち合わせや商談が夜になることも多いので、体力的なキツさもあります。もともとコミュニケーションスキルに自信をもっていましたが、上司が言った言葉の意味を取り違えたり、お客様の気持ちをくみ取れなかったりしてトラブルが続いた時期は精神的にもキツかったですね。でも、お引渡し時にお客様から「ありがとう」の一言が聞けた瞬間は、この仕事をやっていて良かったと心から思います。住宅メーカーの営業は、単に家を売るのではなく、夢を売る仕事です。おそらくお客様にとって一生で一番高価な買い物、それを任せていただくやりがいと同時に責任の重さを感じています。今はまだ目の前のことをこなすだけで精一杯ですが、ゆくゆくはお客様の微妙な心理まで深く踏み込んでお話できるような営業のスペシャリストを目指したいと思っています。

エルクホームズ株式会社
[HP] http://www.elkhomes.co.jp/

Q3.在学中の経験がどのように役立っていますか？

A.以前は物事を成し遂げるときに大事なのは人を「動かす」ことだと思っていました。しかし、この仕事に就いてあらためて実感したのは、人は「巻き込む」ことによって自然に動いてくれるものだということです。家づくりのすべてをコーディネートしていくのが営業の仕事。お客様の夢を実現するためには、設計士やインテリアコーディネーター、現場監督、エクステリアの担当者など、多くの人を巻き込むことが必要です。多くの人と情報を共有し、共感する大切さは、恩師の教えやサークル活動を通じて在学中に学んだことであり、今も実感していることですね。

Q4.最後に、学生へメッセージをお願いします。

A.就職活動はこれまで蓄積した経験やスキルを生かす場です。いざ就職活動の時期になって準備をするのでは遅いと思います。その人の能力やスキル、ポテンシャルは、過去の実績の積み重ねで決まります。就職活動で成功するためには、大学入学時、あるいはそれ以前から将来の就職やキャリア形成を意識しながら、さまざまなことにチャレンジして、自分の強みを発見し、表現できる力を身に付けておくことが大切だと思います。

働くことをもっとリアルに！これから開催される各種セミナー・説明会

【学内業界・企業研究会】

企業や官公庁で働く皆さまをキャンパスにお招きして開催する、“働く”ことへの理解を深める研究会です。業界動向や企業についての最新情報が得られ、仕事への理解を深めることができます。山口大学では、この研究会をキャリア教育の一環と位置づけ、全学行事として実施しています。学生にとっては、「学びの機会・出会いのチャンス」であり、就職活動に大いに役立ちます。

【ジョブスタディ】

業界の異なる大手企業の人事担当者による、異業種合同セミナーです。山口大学、山口県立大学、下関市立大学の3大学合同で開催する、地域連携型のキャリア教育です。

【就職講演会・キャリア学習講演会等】

著名な講師を迎えた講演会を開催し、低学年からのキャリア学習を推進します。公務員採用試験・教員採用試験説明会、就職ナビ活用法、面接対策といった説明会も実施します。

【人事院・国家機関説明会】

人事院・国家機関の説明会です。全体説明の後、個別説明会で、官庁の人事担当者とじっくり話をすることができます。

こちらYU-PRSS!

"Yamaguchi University Public Relations Student Staff" 略してYU-PRSS(ユープラス)。「山大生のあなた(YOU)にも、そうではないあなた(YOU)にも"プラス"になる情報を届けたい」との想いを込めて名付けられました。現在13人のメンバーにて、山口大学の広報活動を行っています。

NEWS&TOPICS

私たち学生スタッフが、山大の最新の話題やニュースをお届けします!

01 第一回山口県ドクターヘリ事例報告会開催

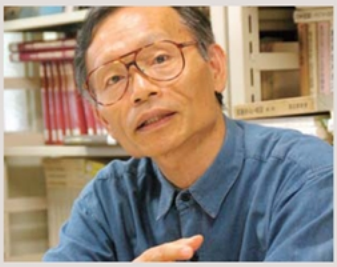
7月23日(土)、医学部で、県内の消防機関や救急指定病院の関係者を対象に第一回山口県ドクターヘリ事例報告会を開催しました。報告会では、これまでの出動ケースについて、消防署と医師それぞれの立場からの評価や反省点などが紹介されました。また、日本医科大学千葉北総病院救命救急センター松本尚准教授を講師に迎えて、特別講演を行い、ドクターヘリは医師らをいち早く現場に運び、迅速に医療行為を開始するための仕組みであり、出動のスピードが要であることを再認識しました。

02 おいでませ!山口国体・山口大会「花いっぱい運動」に参加

8月2日(火)、平川中学校で行われた、山口国体に向けての「花いっぱい運動」に、山口大学も参加しました。この運動は、競技会場や沿道、街並みなどを花で彩り、国体来場者を歓迎するために、県内各地で展開されています。当日は、平川中学校の生徒らとともに、国体推奨花のサルビアやマリーゴールドなどの苗をポットからプランターへ植え替えました。8月下旬からは、国体体操競技の練習会場となる本学にも飾花し、全国から来県される方々を、花いっぱいで温かくお迎えします。

03 纐纈厚教授の最新論集『侵略戦争と総力戦』(社会評論社、2011年6月刊、全440頁)

人文学部教授で近代日本政治史を専門領域とされる纐纈厚教授の最新論集を紹介します。本書は2部構成となっており、第Ⅰ部の「侵略戦争」は、1999年に筑摩書房から同名で出版された本の復刻版です。6章から構成され、アジア太平洋戦争の背景にある日本近代化の矛盾や課題を、幕末期から筆を起こし、敗戦以後をも射程に据え、新たな知見を随所で展開されています。同書は、出版当時において、タイトルと分析視角の新鮮さゆえに、多くの書評を獲得し、出版以後、纐纈教授は実に多様な場で発言の機会を求められるようになりました。その出発点と言える著作であり、現在では中国、韓国、台湾でも翻訳出版されています。第Ⅱ部の「総力戦の時代と現代」は5章から構成され、日本の植民地支配統治技術、近代日本政軍関係、昭和天皇の戦争責任、戦前と戦後の連続性、自衛隊・米軍再編・保守体制など、現代史に関わるホットなテーマについて、纐纈教授の長年の研究成果を遺憾なく発揮された内容となっています。近代史をとらえ直す総力戦概念の導入は、纐纈教授が1980年に提唱され、現在では多くの論者が使用しています。



【YU-PRSS(ユープラス)とは?】「キャンパスライフ」、「ワイユーインフォメーション」の制作に携わる山口大学広報学生スタッフです

YU-PRSSメンバー

林田 久恵/原内 由佳/桐原 祐太/国本 亮/久保田 法彦/入江 貴博/佐々木 裕美/黒江 那津子/長岡 奈緒子/前田 梨乃/吉岡 優一/河島 あかね/溝口 明音

■追加メンバー募集中!

主な仕事は、山口大学のホームページ内にて毎週更新されている「キャンパスライフ」ページの作成と山口大学広報誌「ワイユーインフォメーション」の製作補助です。取材・撮影・記事執筆といった、企画・編集業務に興味のある方、一緒に活動してみませんか?
詳しくは下記アドレスまでメールしてください。

■感想、取材依頼などお気軽にメールしてください!

今号についての感想や、今後こういった特集はどうだろうといったアイデア、こんな人を取材して欲しいといったご要望も受け付けております。また、「私たちを取材して欲しい」といったサークルやグループも大歓迎です!たくさんのメールをお待ちしています。

E-MAIL:campus@yamaguchi-u.ac.jp　キャンパスライフURL:http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus_life%20_web/

「志」つなぎ 伝える
二百年

創基200周年
山口大学

YU-INFORMATION
2011 SEPTEMBER No.103
山口大学広報誌